

質 疑

テゼスパイア皮下注の 費用対効果評価案について

○小塩隆士会長（一橋大学経済研究所教授）

それでは、ただいまのご説明につきまして、ご質問等がございますでしょうか。
はい、それでは森委員、お願いいたします。

○森昌平委員（日本薬剤師会副会長）

はい、ありがとうございます。示された費用対効果評価案については異論ありません。

今回の「テゼスパイア皮下注」は、上皮サイトカインである胸腺間質性リンパ球新生因子を標的とすることで喘息の炎症カスケードの起点に対して作用する最初の生物学的製剤としてカイセツされ、

既存治療によっても喘息症状をコントロールできない重症または難治の喘息患者さん向けの治療薬となります。

費用対効果評価の検討における今回の疾患は、古くから使われている安価な吸入ステロイド薬が標準治療とされている領域であり、せっかく新薬が上市されても、この安価な薬との比較になってしまうため、どうしても価格差が大きくなってしまいます。それによって費用対効果評価が悪いと判断されてしまいます。

一方で、令和6年度費用対効果評価制度の見直しについての中医協での議論においては、費用対効果の悪い薬剤が比較対照技術になったため、結果として費用対効果が良くなったような資料も提示されています。

製薬企業が新薬開発をしようとする意欲を損なうことがないように、今後の検討に向けて、今回の「テゼスパイア」のような事例もあることを踏まえ、今後の検討課題の1つとして受け止めていただければと思います。私からは以上です。

○小塩隆士会長（一橋大学経済研究所教授）

ありがとうございました。ほかに、ご質問等はございますでしょうか。

よろしいでしょうか。ほかには特にご質問等はないようですので、本件につきましては中医協として承認するということでよろしいでしょうか。

ありがとうございます。それでは、説明のあった件につきましては、中医協として承認したいと思います。

田倉委員長、福田参考人、ありがとうございました。